

全共闘・反戦派労働者パーシに抗して あらゆる学園・生産点に

同時多発の占拠・蜂起を準備せよ!!

——全都助手共闘会議連合——

このような状況を踏まえて、「自分の意見は、自分で表明し行動する以外にない」という自覚をもって（日韓条約斗争以来）あらゆる管理体制をはねのけて、闘う労働者が出現し、また「ベトナム戦争は我々の意識内部にも存在する」として戦争加担に対して闘う市民が出て来た。

そのための人民の生活を犠牲にした軍備・資本拡張政策に対し、我々はこの政府＝自民党の帝国主義的野望を阻止する闘いを即時組織しなければならない。

ところで現在の日本の状況は、既成左翼諸党派の日和見改良路線の中で、こうした世界人民との連帯を保障すべき表体は確立されていない。

こうした中で、佐藤政府は七十年安保自動延長を核に、ベトナム戦争加担はもちろん、朝鮮・中国・東南アジア等の第二のベトナム化、第二のピアフラ化政策を、アメリカ政府への協力という形のみならず、自らも独自の進出を着々準備している。

また、権力者・抑圧者の残虐さは、世界中にベトナム・ピアフラ等々、今なお何十何百万の人民を死に追いやりつつある。

日本人民の沖縄人民に連帯する闘いは、こうした沖縄全軍労の責を自らに提起すること以外にない。

米軍の圧倒的弾圧暴力装置によって多くの重軽傷者を出しながらも、沖縄全軍労の労働者は戦闘的五日間ゼネストを闘いぬいている。ベトナム後衛基地化粉碎と労働者の生存権を賭けて、沖縄全軍労の労働者は現在時点から将来にわたって展開するベージ処分粉碎を、日本本土とは比較し得ない悪環境の中で断固たぐっているのである。

参加せよ！

学生・生徒決起集会に

一・三一全都教員・

日大・東大に始まる全国学園闘争は、こりいった思想延長線上に、従来は日帝の人民支配管理の手段でしかなかった欺瞞的知性教育・学問体系に対して徹底した闘いをなし遂げた。更に、この闘いは、学生と労働者といったブルジョア民主主義下の個別分断をうち破り、個別に圧殺され続けていた闘いの連鎖をなす世界性を獲得しつつある。

我々の六九年後半の闘争に際してみたよりに政府ブルジョアジの自衛隊出動まで用意した暴力装置、大学立法、欠席裁判といった立法・司法による圧殺にも拘わらず、闘う人民の輩出は止まるところを知らない。

しかしながら、むしろそれが故に、権力は更に露骨な形での弾圧を開始しはじめた。

我々は現在、あらゆる職場において反戦派労働者のページが開始されたことを警告しなければならぬ。同様に大学・高校においても教員・学生・生徒の処分が行われつつある。

我々はこのページが、占領軍によって行われたかつてのものとは異なり、日帝自らが「秩序」を欲する中間派や、官僚組織化した既成左翼にいたる全ての体制内派を動員して行っていることを指摘し、一切の改良主義的、権利闘争的妥協は許されないことを銘記せねばならない。

我々には、この数年間登りつめた思想の頂上を目指す道しかあり得ない。

我々は未だ主体的闘いに立ち上がっていない労働者・農民・市民・学生に対して、闘い決意と行動を要請する。そして、闘いつつも国家権力の暴力装置の前に後退せざるを得なかった諸君に、現在有効な唯一の手段として、あらゆる職場・学園に同時かつ多発的な占拠蜂起を準備することを提起する。そのことのみが、権力との闘いで傷つき、また、今日不当にも獄中にある同志との闘い連帯を作りあげ、権力によって学園・職場から不当に追放処分を受けている同志に対するわれわれの闘いの姿勢であることを訴える。

一、安保・沖縄闘争勝利 /

一、学園闘争勝利 /

一、七〇年代階級闘争勝利 /

一、高校・大学全共闘・反戦派教員へのページ

処分に抗して、あらゆる学園・生産点に

占拠・蜂起を準備せよ /

高校全共闘・大学全共闘・反戦派教員による

1.31全都教員・学生・生徒処分粉砕決起集会!!

■日時 1月31日(土) 5:20P.M. ■場所:全電通会館(お茶の水駅下車) ■主催 全都助手共闘会議連合

参加団体 日大教員共闘 東大助手共闘 I C U 助手共闘 明大助手共闘 日大小林教官を守る会 東大不当処分撤回共闘会議 日大全共闘各学部闘争委員会 東工大全共闘(予定) 電通大全共闘(予定) 教育大全共闘(予定) 反戦派教育労働者 不当弾圧粉砕共闘会議 葛西工業高校処分粉砕共闘会議 北高校全共闘 立川高校全共闘 青山高校全共闘(予定) その他